

第2回アジア・太平洋地区 NCM 実務者会議

日時：2018 年 4 月 21～25 日

出席国：日本、フィリピン、インドネシア、ミャンマー、カナダ、エチオピア、6 か国

出席者：篠澤・江頭（日本地区）、ダン(フィリピン地区)・イチャベツ（グアム・マリファナ諸島地区）、ロオニ（マレー半島・インドネシア地区）、ジェロム（東アジア/ミャンマー・ラオス・タイ）、ワットン夫妻（APNCM コーディネーター）、ゼカリア（エチオピア/（世界 NCM 代表））、ジャンナリー（アジア地区 NCM コーディネーター）



●22 日（日）、各国代表がそれぞれ4つの地域教会に派遣される。

篠澤－Five wad New Life Nazarene church(Pastor:Lai vian Vul)ブーラ先生の教会を訪問。

22 日の気温：最高気温 39 度 湿度 60%でした。

支援物資のサンプルを 40 キロ持参したので4つの教会に配布（衣服・文具・靴等）

東京事務所と京都事務所で支援物資のサンプル40キロをヤンゴンの貧困地域の4教会に配布する事にした。

私が行った教会は電気が通っていないので自家発電機を使用。



ゴミの集積もなく至る所にゴミが散乱するなど公衆衛生が酷く上下水道も通っていない。

以前訪れたフィリピンもヒドイと思いましたがそれ以上だった。一緒に訪れたフィリピンの同労者もヒドイともらしていた。
衣服はとても喜ばれました。



教会の礼拝はとても活気があり、恵まれた。昼食も一緒にいただいた。感謝。



これらの事情を鑑み、今後、東京事務所と京都事務所で今後、ミャンマーの貧困地区に物資を送るプロジェクトを進めていく方向性を決定した。

●23 日午後 5 時～5 時 40 分：ミャンマーNCM と日本大使館との協議

出席：＜NCM＞

NCM ジャパン-篠澤、江頭、NCM ミャンマー-ジェロム、

Wash プロジェクト責任者（世界 NCM）-ゼカリア

＜日本大使館＞

参事官：田公和幸（たきみかずゆき）

三等書記官：鈴木彩乃（すずきあやの）

<協議内容>

- ・ NCM および NCM ジャパンの紹介
- ・ NCM ミャンマーの活動及び実績
- ・ 今後進めていく水プロジェクトについての説明

ーミャンマーでの現地 NGO からの助成金依頼数は他のアジア各国よりも多い。但し、水プロジェクトは・水が出ない・水が枯れた・ヒ素が検出されたという事例が多く、とても難しいプロジェクトであると大使館側は認識している。

これらの問題に対してゼカリヤ氏より、これまでの世界 NCM では年間 2 億円の予算で世界各国で水プロジェクトを進めてきた。

大使館側が懸念する事項については世界 NCM でカバー・アシストできると説明。

非常に難しいプロジェクトであるがゆえに成功すれば大きな成果である。

今後、ミャンマーNCM との連絡を通して大使館側が現地調査するなどを行い。助成できるかを判断していく事となる。



○NCM ジャパン報告／篠澤師の黙想と証

- ・ 京都の居場所支援は一つのモデルケースとして行っている。

地域はこのプログラムを疑心暗鬼しながら見てきた。孤軍奮闘しているが、自分も子育て中で苦しい中にあるのに同じ世代を助ける・しかも感謝されることもなくときに拒絶される事もある中でこの進める事に矛盾に陥ってしまう事もあり、是非とも祈りを共にしてほしい。

・海外 NCM の事を日本ナザレンではあまりわからないところが多いので、より大きな・そして密なコミュニケーションを共に進めていけたら共に理解しあえると思う。

キーポイント

「喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。(ローマ 12 章 15 節)」

○次回：2018 年 10 月頃、インドネシアで開催予定。

■ミャンマー事情

人口：5300 万人 首都：ネビドー 商業都市：ヤンゴン（ラグーン）

宗教：仏教 ビルマ族、130 の少数民族

宗教と生活が密着している。一生のうちに 1 度は男子をお寺に修行に入れるのでこれが生活との密着に繋がっていると一因と言える。

仏教は上座仏教で、来世への憧れが強く、来世へのご利益を求める信仰が強い。

パゴダ（パゴダ）を訪れる現地人も多く、その信仰の強さを感じる。

シュエダゴンパゴダ：2014～2015 年の改修工事で、ダイヤモンド 5000 個以上、ルビー1000 個以上の計 7000 個近い宝石も散りばめられ、パゴダ（仏塔）の頂上部分には 76 カラットのダイヤモンドがはめ込まれている。

これらの宝石はタイやインド、中国、日本からの寄付もあるがミャンマーの人々の寄付も大きい。これは上記に示した信仰が背景にある。

また農地改革が行われておらず、貧富の差が激しい。

そのため、税金も集まらないため、観光業の収入が特に重要である。

ヤンゴンでも区画ごとに貧富の差を感じる。特に工場地帯周辺は電気・上下水道がほとんどない地域も多く、水プロジェクトは重要なプロジェクトである。しかし、すでに記述した通り水プロジェクトの問題も多く解決の道も程遠い。

